

## ～がんばる船高生～ **ATTENTION!**

### 第38回 地域貢献を目指す 船高アクティブリーダー育成プロジェクト

本校では、「船高アクティブリーダー育成プロジェクト」(以下「アクティブ」と題して、東日本大震災から9年経った都路町の風評被害について調査し、都路町の農家の方などとの交流を通じて、魅力を再発見する活動をしています。将来の地域のリーダーとして活動すべく、1・2年生を中心に30人が参加しています。

今回は、「アクティブ」に参加している本間琉星さん(1年 都路中出身)、佐藤沙也夏さん(1年 都路中出身)、助川静香さん(2年 船引中出身)、小針萌々夏さん(2年 三春中出身)に話を聞きました。



▲左から小針さん、助川さん、佐藤さん、本間さん

—なぜ、「アクティブ」に参加しようと思ったのですか？

**本間さん・佐藤さん** 私たちは都路町出身で、他県の方に地元を知ってもらい、活動に貢献したいと思ったからです。

**助川さん** 地元で就職する前に、地域を復興させるための地域理解が必要だと思ったからです。

**小針さん** 私は震災当時、栃木県にいて当時のことをよく知りません。だから被災地について知りたいと思い、参加を決めました。

—夏休み中に都路町を訪ねたそうですが、どのような活動をしたのですか？

**小針さん** グループに分かれて、トマト農家・菊芋農家・イワナ養殖を営んでいる方にお話を聞きました。

**本間さん** 私はトマト農家を訪ねました。震災後から県外のお客様の需要に応えるための有機栽培を取り入れていることを知りました。風評被害で売れないことを悲観するのではなく、買ってもらうための工夫をしていることがすごいと感じました。

—都路町の魅力を伝えるために、今後取り組んでいきたいことはありますか？

**助川さん** 市民である私でも、初めて知る都路町の魅力がたくさんありました。そのため、まずは福島県民へ魅力を伝えることが必要だと感じました。私は身近にいる友人に今学んでいることを伝えていきたいです。

**佐藤さん** 私は、県内の高校生が集まるプレゼンスキル講習会の「ふくしま ナラティブ・スコラ」に参加しています。これまでに互いの地元や学校の紹介を通し、伝える力を学びました。講習会で得たスキルを「アクティブ」に生かすとともに、卒業後は他県に進学・就職をし、その地で福島県の魅力を伝えていきたいです。

### ◆令和2年度「夢を育む講演会」が開催されました！

9月2日(水)、エアレース・パイロットの室屋義秀氏をお招きし、「目標達成の秘訣～自分を磨く三分間～」と題してご講演をいただきました。

「夢をどのようにして見つけるか」や「夢や目標に向かって挑戦し続けることの大切さ」について、ご自身の夢を後押ししてくれた人との出会いなどの経験をもとに、飛行映像を交えながら、お話していただきました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり本校生のみでの参加となりましたが、来年度は田村市の中学生や一般の方々を招いて開催できることを期待しています。



福島県立船引高等学校 Tel...0247-82-1511 Fax...0247-82-5233  
HP...<https://funehiki-h.fcs.ed.jp> mail...[funehiki-h@fcs.ed.jp](mailto:funehiki-h@fcs.ed.jp)

## トランク・オア・トリート



Roslyn Nicole Ludden  
ロスリン・ニコル・ルデンさん  
(アメリカ合衆国  
カリフォルニア州出身)  
田村市に来て1年目

私たちが知っているハロウィーンは、子どもたちが衣装に身を包み、手に枕カバーを持ち、「トリック・オア・トリート」(お菓子をくれないといたずらするぞ)と叫びながら甘いお菓子がもらえることを願って家から家を歩き回る古い伝統です。しかし、ここ十年ほどの間に、いろいろな地域社会に「トランク・オア・トリート」という新しい流行が、徐々にアメリカのハロウィーンに見られるようになりました。言い換えれば、家ではなく、車のトランクを使って子どもたちが「トリック・オア・トリート」をするという事です。それは奇妙に聞こえるかもしれませんが、ボランティアと子どもの両方にとって楽しいものです。



約1カ月前からハロウィーンを主催する教会や学校は、ボランティアを探し始めます。主催者が地域の人たちにチラシや申込書を配り始めると、ボランティアはその大きな行事のため一生懸命に車のトランクの準備をします。時には、ボランティアたちが互いに思いついた手の込んだテーマの優劣を競う競争になることもあります。私の場合、たった二週間の準備期間で教会のボランティアと組むことになりました。いろいろなデザインの下書きをしたり、デザインに合った飾りのある店を探したり、衣装を作るた

めにいろいろな布を組み合わせたりました。ハロウィーンの晩、ボランティアは数時間前に集まり、決められた場所に車を駐車して準備を始めます。主催者は、この時間に打ち合わせをしたり、準備を手伝ったり、どのトランクもお菓子でいっぱいになっているかを確認します。ボランティアたちは、準備をしながら周りを見比べ、テーマに沿ったデザインやそれに合った衣装の創造性で負けたと思うことがあるでしょう。私と弟は、伝統的なアメリカのボードゲーム、「モノポリー」(さいころを使う卓上ゲーム)をテーマに選び、モノポリーおじさんやマロリー巡査(モノポリーのキャラクターたち)の仮装をしました。ハロウィーンが始まると、多くの子供たちが手にかぼちゃのバスケットを持って、お菓子を集めながら車から車へ歩き回ります。中には、お菓子をもらう前にゲームをする車もありました。その日の終わりには、参加者みんながたくさんのお菓子をもらい、満面の笑みをたたえて帰っていきます。

広告欄 Advertisement

# 有料広告募集中

問い合わせ…総務部 経営戦略室 (☎0247-81-2117) ^